

一

問一

大人の都合で定型的にとらえられてきた子供像を変革し、彼らが元々備えている能力や個性に目を向けて、その存在の本質を問い続けること。

問二

ドラマによって戦災孤児は、みな仲間とともに保護下にいると誤認されたため、自分たちのような浮浪児は現実にはいないものと認識されたということ。

問三

冷酷な現状から目を背けて考えないようにさせることなく、子供の考える力、感じとる強さを信頼して、現実を描いていくということ。

ニ

問一

1 規模 2 無機質 3 裏側 4 明示

問二

シンポジウムの話

日本語がわからない人は名乗り出るようにと、彼らがわからない日本語でアナウンスしているという矛盾が起こっている点。

検収センターの話

ここが検収センターだという告知は案内のためのものであるはずなのに、行程には何もなく、迷いつつようやく到着した受付にその告知がしてあったという不毛な点。

問三

魚は目を閉じることはできないが、「人」は相手の心を求めて伝えたくても傷つくのを恐れる臆病さゆえに、目を閉じて伝えないという選択ができてしまう不自由さがあるということ。

問四

相手が伝えることは、今までの自分の考えを打ち砕き、相手の考えが深く自分の思いを形成する一部となることであり、それは精神的痛みを伴うから。(六十八字)